

2023年4月10日

令和5年（2023年）度

学校法人練馬みどり学園 田柄幼稚園 経営計画

The Management Policy of TAGARA Kindergarten 2023

学校法人練馬みどり学園

田柄幼稚園 園長 古閑 博美

はじめに

新型コロナウイルスはパンデミック（世界的な大流行）となり、2020年以降3年に渡って私たちの行動や活動に停滞や、変化をもたらしました。「三密」ⁱ「マスク着用」「ソーシャルディスタンス（ディスタンシング）」などの言葉は日常に定着し、何より社会生活上、経済や教育、社会文化的行動に打撃を与え、人どうしのコミュニケーションの有り様に多大なる影響を与えました。

2022年にはウクライナ紛争が勃発し、現在に至っています。地震や異常気象などによる自然災害のほか環境破壊が進み、世界情勢は予断を許さない状況です。こうしたなか、物価上昇のスピードは加速し、生活を直撃しています。教育費の無償化の恩恵がかすむ事態といえるほどです。

本園は、こうしたさまざまな状況に対応しつつ堅実な経営を目指し、今年度も職員一丸となって教育の質の向上に取り組みます。核とするのはSDGsⁱⁱ、ウェルビーイングⁱⁱⁱ、ジェンダーフリー^{iv}です。敬称略。

1. 方針

（1）田柄幼稚園憲章、経営理念、教育理念

「田柄幼稚園憲章」^vのもと、幼児教育機関に必要かつ十分な教育と保育に取り組みます。園長が新たに策定した経営理念「社会の宝である子どもの教育と成長課題に真

摯に取り組む」^{vi}はパーパス（志）として職員と共有し、経営環境を整えていきます。

今年度も、本園の教育理念「子どもは何ものにもかえがたい宝である」（創立者 吉田富五郎）を肝に銘じ、全身教育^{vii}を通じて園児たちに「いのち・こころ・からだ」の大切さを伝え、教育目標「たどしい子、うつくしい子、つよい子、あかるい子」の育成に努めます。

（2）園内整備

昨年度に予定していた新園舎建築工事着工は理事会にて正式に中止を決定しました。世界情勢や社会経済の状況により計画変更を余儀なくされたものです。

今後、現園舎（施設と園庭）の修繕、改修と整備を行います。改修整備関連の情報は逐一ご利用の皆様にお伝えし、協力を仰ぐものです。そのさい、園内は整備途上の環境になります。ご不便をおかけすることがあるかと存じますが、何事も安全第一に進めてまいりますのでご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。地域に根差した幼稚園^{viii}としてよりよい教育環境を創造すべく取り組みます。

そして、練馬区立田柄小学校に隣接する地理的条件を生かし、学園地域の幼稚園として成長を目指します。

（3）感染症拡大防止と保護者支援

2023年4月1日以降、教育機関における

マスク着用は「学校教育活動の実施に当たっては、マスクの着用を求めないことを基本とする」^{ix}ことが示されました。本園は行政の指針を踏まえつつ、幼児教育機関として安全を重視し、園内では引き続き保護者および小学生以上の皆様にマスク着用をお願いします。同通知により教諭は、教育・保育活動中のマスク着用は任意とします。

本園利用者のマスク着用については5月の連休明け後の状況を見て判断し、取り組みをお知らせします。新型コロナウイルス以外にも、通年で各種伝染病の感染拡大や、怪我等の防止に努めます。

就業等で活動する保護者は増加し、預かり保育への期待が高まるなか、支援体制を整えてまいります。お子様の安全管理上、本園の利用規約を順守してください。

2. クラス編成と体制

今年度は以下のとおり、在籍園児数が確定しました（4月1日付）。通常の教育時間内は一人ひとりの個性や特性を踏まえた教育を、預かり保育では家庭的で安心安全な保育を、それぞれさまざまなアプローチ（教授法）を駆使して行います。

（1）クラスと陣容

通常教育は、満3歳児学年「プレ初年期教育」、3歳児学年「初年期教育」、4歳児学年「中間期教育」、5歳児学年「幼小接続期教育」に位置付けます。正課カリキュラムは「英語」「論語」「体育」（2018年度導入順）を全学年で実施するほか、学事日程を踏まえて週案を作成し、微調整しながら人工的産物と自然的産物を適宜取り入れ、年度のエデュケーション目標達成を目指します。

① 満3歳児学年（定員1クラス25名）

1クラス（いちご組）合計25名

二人担任制

② 3歳児学年（定員1クラス29名）

3クラス（ばら組25名、ひまわり組25名、すみれ組26名）合計76名

二人担任制

③ 4歳児学年（定員1クラス35人）

3クラス（パンダ組24名、キリン組24名、コアラ組23名）合計71名

④ 5歳児学年（定員1クラス35人）

3クラス（つき組27名、ほし組27名、そら組26名）合計80名

②～④の総計227名（男児112名、女児115名）に①の園児が入園し、総計252名（いちご組25名入園として）です。年度中、中途退園と入園により加減有。

以上のとおり、園児の教育と保育を担う体制が整い、新年度がスタートしました。職員は正規職員24名、非常勤教職員＋園医他18名、非常勤講師6名のほか顧問1名、教育支援委員10名、カウンセラー1名です。

（2）特別教室と課外教室

本園は上記のクラス運営のほか特別教室（わくわく・すくすく教室〔2歳児枠。プレ初年期教育に準じる〕、にこにこ教室〔練馬子ども園。預かり保育〈短期・長期〉〕、きらきら教室〔延長保育〕、しるでき^{®x}〔5歳児学年希望者対象〕、しるでき[®]〔修了児と他園卒園児対象〕）を運営し、課外教室として外部組織5団体を受け入れています。

わくわく教室とすくすく教室は幼稚園に親しむすなわち子どもたちが集団社会生活を体験する第一歩となります。後期は親子分離のプログラムを実施します。

因みに、幼稚園は子どもが通う初めての学校に位置づけられます。将来、我が国でも

幼稚園からの義務教育化が議論の俎上に載るのでは、と思考しています。これはまた別の稿に譲ります。

今年度、課外教室として本園と契約を交わした団体は以下のとおりです。団体名と指導代表者。順不同。

- ① らくがきっ子体操クラブ 佐藤 弘道
- ② 田柄バレエ教室 松本 美代子
- ③ ECC 英語教室 ECC 幼児教室推進課
- ④ キンダーFC 田柄（サッカークラブ）
三才 維摩
- ⑤ 西武囲碁教室 浅野 康人
- ⑥ その他（予定）
 - ・茶道体験講座（茶道裏千家教授）
深沢 宗建
 - ・子ども俳句道場
指導 菊地 悠太（「河」同人／選者）・
古閑 裕海（「かいぶつ」同人）

3. 教育環境

(1) 健康・安全

園児の健康と安全を最重要課題とします。コロナ禍の山場は過ぎたとされますが、上述した理由で来園される方は健康確認（検温ほか）と、状況に応じてマスク着用（乳幼児は任意）をお願いします。

1) マスク着用

マスク着用等は文部科学省、厚生労働省、世界保健機構（World Health Organization: WHO）、東京都、練馬区などの指針を参考に本園の運用規定を策定しております。今後も、各種伝染病の予防と感染症拡大防止のため、職員は健康確認（通年）および必要や状況に応じてマスク着用を義務付けます。園児のマスク着用（任意）は従来通りです。

来園者は本園の経営環境の保全にご協力

ください。本園利用規約等への協力が得られない場合、ご利用をお断りすることがあります。

2) 環境保全と人間関係の構築

過去3年間、新型コロナウイルス感染症の拡大により、マスク着用や人どうしに「ソーシャルディスタンス」として物理的距離や空間を置くことが要請されてきました。それにより、私たちはマスクで表情が十分に见えないなかでさらには間隔を保って関係構築を模索せざるを得なくなりました。幼児期に必要なして十分な顔認識行動の習慣や、コミュニケーション能力開発と訓練の機会が削がれ、将来的に不可欠な人間関係構築力が減じるのでは、とは、誰しもが不安に思うところではないでしょうか。

コミュニケーション能力の開発と向上、発達に不可欠な表情確認がしにくい状況を少しでも解消するため、本園の教諭は一日のうち最低2回（朝の会と帰りの会）はマスクを外して園児たちに顔いっぱい笑顔を見せることおよびマスクの下での発音発声や表情筋の使い方を工夫してまいりました。今後の対応については前述したとおりです。

3) 園内環境

行動規制やマスク着用への要請が緩和されつつあるなか、本園は園内での基準を設けていることにご理解ください。

幼児教育の現場は「三密」（密集、密接、密閉）回避以前に、「密着」が避けられないことから、教育や保育にあたる職員の健康にも配慮が不可欠です。園児の健やかな成長を願い、保護者との意思疎通を十分に行うとともに行政機関等関係各所との連携を図り、本園利用者と勤務者の健康で安全な環境の維持に努めます。

(2) 七育と園児尊重の

本園は、教育理念を具現すべく全身教育の推進と、教育目標の達成を掲げています。土台となる七育（徳育、知育、体育、技育、美育、食育、遊育^{xi}）に、正課科目（英語、論語、体育）をはじめ発達過程に応じたカリキュラムの充実に一層努め、シラバス（教育計画）は年度初めに提示します。

1) 4つの芽「自尊、自主、自立、自律」

幼稚園は社会の縮図であり、多様性の集合体として多様化する価値観を受容する場所となりつつあります。本園はジェンダーに配慮し、誰にとっても心地よい空間の構築を目指します。幼児らの「ひと」たる成長を支援するうえで「自尊、自主、自立、自律」の芽をはぐくむことは、将来、独立したひとりの人間として社会で生き抜く力の獲得を視野に入れてのことです。

それにはまず、私たち大人の内なる偏見の存在に気づくことや、これまで蓄積してきた学修知の見直しが必須です。これは、保護者や関係各位各所の協力と理解に負うところ大です。

2) 家庭と幼稚園とで共有したいこと

子どもたちの心身の健やかな成長のために、家庭でも幼稚園でも①挨拶励行、②衛生的で安全安心な環境構築と保持、③清潔な衣服の着用、④1日三食摂取。暴飲暴食や偏食防止、⑤十分な休養と睡眠、⑥よい言葉遣いや振る舞いの励行、⑦親子のスキンシップや他人との良好なコミュニケーション、⑧外気にあたり適度な運動、⑨美的で創造的なものやことに触れる機会増、⑩季節の移ろいや変化に気づく感性を養うことが肝要です。褒め言葉は場面に応じて適切に用いましょう。

すると、おのずと幼児の心身が安定してき、幸福感を持って成長することが見込めます。こうしたウェルビーイングの実現に、家庭と幼児教育機関の認識の一致や協力が重要となります。

3) 環境と教育

「三つ子の魂百まで」は幼児期に目にし、耳にし、口にし、手にしたものは経験値としてその子の一生に知らず識らず影響を与えているのであり、人格形成に深くかかわっていることをいう諺です。幼児教育の重要性にかかわる諺として知られ、乳幼児期の環境や社会との触れ合い、教育や体験の重要性を示しています。そこに、親子関係や、子を取り巻く社会など、広く環境がかかわっています。

ひとの成長にとって「ひと・もの・こと・ほん・しぜん」との出会いやかかわりが不可欠です。日常にさまざまな経験が待ち受けているなか、乳幼児期は人生の初期にあたり、重要な人格形成期に位置づけられます。生活者に必要な社会性や行動の仕方などを身につけるほか、性格形成のうえからも大事な時期です。性格形成には「行動と考え方のパターン」が影響しているといえます。幼年期こそ老年期に至る道程に備えるべきなのです。そこに、愛と信頼関係は必須です。

4) 人の原点にある温かいもの

ひとの原体験に、温かい乳房に触れ温かい母乳を口に含んだ体験があります。誰であれ、温かい言葉や態度で接してもらいたいと望むことは温かいものに触れ、提供された原体験からして当然のことなのです。逆に、そうした体験が奪われるようなことがあるとしたら、成長過程での損失や打撃は計り知れないものがあるといえます。

乳幼児期は、愛され抱きしめてくれる人間関係や経験が最も豊かに提供され受容する時期にほかなりません。子どもが社会の「宝」として育つためにも、人生の初期に無条件かつ無償の愛があることこそが生涯の支えとなるのではないのでしょうか。

本園の教育理念である「子どもは何ものにもかえがたい宝である」を具現すべく、教職員は園児一人ひとりの個性を見極め尊重し、教育の質の向上に励み、成長にふさわしい教育活動に取り組みます。挨拶励行は本園のよき伝統です。保護者や、地域の方々に支えられていることに感謝し、本園の教育と運営にご理解を得るための努力を惜しみません。

(3) 教職員の育成と支援

職員のキャリアアップとスキルアップを奨励し、研究を教育現場で実践する職員、そして現場の課題を研究する職員を支援^{xii}しています。2021年度～2022年度にかけて、4人の教諭が幼稚園教諭一種免許を取得しました。

本園は、園児の教育や保育にあたるうえでエビデンス^{xiii}を重視しています。職務は以下のことがらに留意し、漏れのないように細心の注意を払って取り組みます。

- ⑦ 5W1H「Where, What, When, Who, Why, How」（キップリング^{xiv}の詩の表現順）の徹底
 - ⑧ 「ハウレンソウデンセツカク（報告連絡相談伝達説明確認）」（古閑博美）の徹底
 - ⑨ 5S（Seiri, Seiton, Seisou, Seiketsu, Shituke）の徹底
 - ⑩ 研究会^{xv}や研修会への積極的な参加など
- 職員の研修機会は正規・非正規を問わず

研鑽の機会として設置しています。

また、幼児教育界の人材育成の観点から、教育実習生を積極的に受け入れています^{xvi}。

(4) 顧問、教育支援委員、カウンセラー、園医、薬剤師、弁護士

本園は顧問1名、教育支援委員10名、カウンセラー1名、園医2名、薬剤師1名、弁護士（事務所）1名を擁しています。教育支援委員は男女各5名からなり、各専門領域の観点から職員研修や保護者のための学修講座の講師として登壇してもらいます。

本稿では教育支援委員のひとりである広島大学大学院人間社会科学研究科日本語教育学プログラム准教授の奥村安寿子委員（博士）をご紹介します。同委員とは幼児教育に資する研究を推進するほか教育面で支援を得ています。それらは、①4歳児学年の園児を対象にした「ことばの調査」実施、②全学年対象の園児観察と必要なカンファレンス、③特別教室・5歳児学年園児希望者対象「しるでき[®]」学修支援などであり、保護者の子育て相談などです。

カウンセラーは企業でのカウンセリング経験が豊富であり、職員は第1学期に面接必須とし、その後は希望に応じて申し込む制度を設けています。主として職員のメンタル面での健康管理の一助とし、保護者には無料相談の場として提供しています。こちらは、本園は関与しません。連絡先は次のとおりです。「田柄幼稚園相談（カウンセリング）」soudan@nmg.ed.jp。秘密厳守。

園児の健康診断は園医（内科医、歯科医）が担当し、薬剤師は薬品類について助言をします。また、毎年度、園医によるエビペン講習と顧問弁護士による就業規則や情報管理、ハラスメント等の研修を実施します。

(5) 地域連携—地域に溶け込み愛される幼稚園—

地域の方々とともに田柄幼稚園ならではの行事や奉仕活動を企画し、実現しております。以下に主な活動を6件紹介します。

1) 地域への奉仕

地域への奉仕として愛宕神社で清掃活動を行います。園児は神社の境内で遊び、持ち帰ったドングリや木の葉は教育時間の制作等に活用しています。保護者の自転車置き場としても利用させていただいております。落葉の季節には落葉を清掃し、夏は地域の祭りを楽しむ園児と保護者の姿があります。

2) 収穫体験

園児等は、毎年、吉田茂雄教育支援委員の農園（エコファーム ヨシダ）で収穫体験を行うほか、吉田委員と本園理事会メンバー吉田聡理事（すずしろ農園）の協力を得て「トコトコたがらん®市場」（2022年5月20日開設。不定期）へ野菜を提供してもらい本園関係者に販売しています。新鮮な季節の野菜はひとの健康を支えるだけでなく味覚の発達にも影響するものです。運営はボランティアベースで主に修了園児の保護者が担い、職員のほか場合により在園児の保護者が手伝います。

3) 教養文化講座

本園は2018年度より「教養文化講座」を企画し、運営しております。それらは、①国立劇場での歌舞伎・文楽鑑賞教室の観劇。我が国の演劇や劇場文化に触れる機会としていきます（希望者）、②柳亭小燕枝師匠を迎えて子ども落語会を学年ごとに開催。落語の話芸や所作を通して芸能やコミュニケーションの学修機会としています。園児たちが笑いのツボを押さえて聞く姿は最高です。

③2022年度開講の茶道体験講座は茶道裏

千家 深沢教子教授を指導者に迎えて不定期に開催。親子で参加する機会としました。なかに三服所望した園児がいて驚きました。

今後、親子で楽しむ俳句講座を企画する予定です。

4) 近隣社会との交流

近隣の株式会社クラーチ「クラーチ・ファミリーア光が丘公園」の利用者の方々と交流し、コロナ禍のなかでもビデオメッセージを送ったり、季節ごとにプレゼント交換をしたりしてきました。同社職員の育てたメダカを分けてもらい、園内で育てています。1日も早く直接交流する機会が訪れることを願っています。

5) 飼育と栽培

修了児や在園児の保護者からカブトムシや金魚、球根などの寄付があり、植物や小動物の成長観察や飼育に生かしています。

6) えほん食堂（子ども食堂）

2022年10月26日、田柄二丁目にこども食堂「えほん食堂」（代表 吉田愛子）がオープンしました。協力 立教大学法学部薬師丸ゼミナール。田柄幼稚園後援。ご利用は、本園利用者が対象です。月2回程度。絵本に囲まれた空間は食育活動のみならず知的活動にも最適な場所となっています。利用者どうしの交流はこれから活発になると予想されます。

(6) 自己評価・学校関係者評価委員会

毎年、職員にアンケート調査を実施し、集計結果は職員研修の場でフィードバックしています。園長は総括し、現状を職員と共有するとともに次年度に向けて各自で課題を確認するようにしています。

職員研修後、3月に自己評価・学校関係者評価委員会を開催し、外部の識者の意見を

参考に次年度に備えます。委員は、次の方々です。順不同。

- ・練馬区立田柄小学校校長 伊藤 雄一
- ・広島大学大学院人間社会科学研究科日本語教育学プログラム准教授、本園教育支援委員 奥村 安寿子
- ・立教大学法学部特任教授 薬師丸 正二郎
- ・学校法人練馬みどり学園 田柄幼稚園 おひさまの会会長 林 礼奈

本園からは理事長、園長、事務長が出席し、事務局は教務・学務担当が務めます。

(7) 規程とマニュアル作成

2022年度は主として利用規約を見直し周知しました。職員のストレス抑止についても明記しました。マスク着用はさまざま意見があったなか、上述した省庁などの指針や園医、顧問弁護士等の助言を基に本園の指針をまとめました。

安全管理のうえからは、近年、通園バス車内で起きてはならない事故が度重なったことからマニュアルをより一層厳しく見直すとともに、全園児にクラクションを鳴らす訓練やバス火災等を想定した避難訓練を実施しました。今年度は通園バス内設置が義務化された「置き去り防止安全装置」を設置し、より安全な環境を設定しました。

園庭遊び中に園児が一人で園外に出ないように監督するのは無論ですが、ご家庭にも安全教育への協力を求めます。

地震や火事、不審者等を想定した避難訓練は毎月実施し、9月は保護者の引取訓練

を行います。危機管理マニュアルは都度見直し、職員間で情報共有を徹底します。マニュアルは最低限必要な準備と心得、今後とも危機管理意識を強固にしていきたいと思います。

まとめ

園長として2018年に着任して以来、田柄幼稚園憲章の策定や職員のキャリアとスキルアップ等、さまざま取り組んできました。2022年度には6件の登録商標^{xvii}を有し、親しみのある幼稚園として発展すべく有効活用しています。

幼児教育の重要性に鑑み世界に羽ばたく人材育成を視野に入れて、提唱する「全身教育」を推進します。未来科学の発展や多様化する社会に適切に対応するうえで必要な能力の芽を損なうことなくはぐくむことに力を注いでまいります。なおまた、最新の学問や科学技術のみならず「故きを温めて新しきを知れば」^{xviii}というように、先人の言葉や歴史に学ぶことを重視しています。

2023年度もこれまで同様、本園は保護者の皆様と緊密に連携し、園児の安全と健康に配慮して経営してまいります。

末尾ながら、教育と保育にあたる職員は園児を愛して止まない職能集団です。個々人の職能をより発揮することができるよう、保護者およびご利用の皆様のご理解とご協力を重ねてよろしくお願いいたします。

文責 古閑 博美

ⁱ 三密「密閉空間、密集場所、密接場面」の状態はクラスター（集団）感染が発生しやすい。幼児教育機関は「密着関係」が避けられず、園児どうしのまた教員と園児の距

離を取ることは非常に困難な職場といえる。換気は通年で常に行っている。

ⁱⁱ Sustainable Development Goals の略称。持続可能な社会の目標として、本園は「4

質の高い教育をみんなに」に力を注いでいる。

- iii 身体的、社会的、精神的に満たされていること。ウェルビーイング（well-being）：幸福、福利、健康（『ジーニアス英語辞典』）。人々の幸福や健康を志向するウェルビーイングは、近年、教育界でもキーワードとして注目されつつある。厚生労働省は「個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念」と定義している。

「OECD（経済協力開発機構）ラーニングコンパス（学びの羅針盤）2030」は、個人と集団のウェルビーイングに向けた方向性を示し、教育の最上位目標として「教育および社会のウェルビーイング（幸福）」を挙げている。

- iv 性別ほか人からいわれのない誹謗中傷を受けずに国民に与えられた公平な権利を履行しながら自分の人生を堂々と歩んでいける社会での生き方。

- v 2021年4月1日策定。5項目から成る。

学校法人練馬みどり学園 田柄幼稚園憲章

Charter of Tagara Yochien

1. 私たちは、学校法人練馬みどり学園 田柄幼稚園（以下、田柄幼稚園という。）を園児たちの健やかな成長を担う教育機関としてふさわしい環境に整えます。
2. 私たちは、田柄幼稚園の教育理念のもと、教育目標の達成を目指し、全身教育を推進するため幼児教育者に必要な研鑽を積みます。
3. 私たちは、田柄幼稚園への社会的期待に応えるべく不断の努力を怠らず、保護者ならびに地域社会との連携を図り、推進します。
4. 私たちは、田柄幼稚園が定める規則に則

り教職員の働く環境を整え、世界を視野に入れた教育と研究に取り組み実践します。

5. 私たちは、田柄幼稚園が世界に繋がっていることを認識し、国際目標のSDGs（持続可能な開発目標）^{vi}に賛同し、なかでも「4 質の高い教育をみんなに」に積極的に取り組みます。

- vi 2023年4月1日、幼児教育に従事する職員および園児とその家族の幸福を目指し、「社会の宝である子どもの教育と成長課題に真摯に取り組み続ける」と掲げた。

- vii 定義：全身にさまざまな刺激を与えることにより心身の善的発達に寄与する教育（古閑博美 2018）

- viii 令和5年（2023年）12月9日、創立64周年を迎える。

- ix 4文科初第2507号 令和5年3月17日「新学期以降の学校におけるマスク着用の考え方の見直し等について」

- x 幼小接続準備講座「しるってたのしい できるってうれしい」（古閑博美命名）の愛称。「しるでき」「しるでき+（プラス）」は田柄幼稚園登録商標。

- xi 遊育（ゆういく）は古閑博美の造語。遊びをとおしてまた遊びのなかで成長するための教授法。日本文化の伝統にもある「遊び心」（音楽や芸術を好むことや、くすぐり、ユーモアおよび滑稽などを解し、親しむ態度）の育成を含む。

- xii 「研究手当」以外の研究費支給制度。10,000円／年。個人および共同研究申請を園長が審査し、採用の可否を決定。

- xiii エビデンスとは「背景に行動科学や疫学統計学、脳科学などの科学的根拠があり、再現性が担保できること」。『東洋経済メール』20230408 閲覧

- xiv ジョゼフ・ラドヤード・キップリング

（Joseph Rudyard Kipling, 1865～1936）
イギリスの小説家、詩人。『ジャングル
ブック』ほか。

^{xv} 職員は、園長が主宰する魅力行動学会研究会に参加（含発表。公開）するほか、練馬区私立幼稚園教育研修会の5領域（古閑は「言葉」担当理事）の研修に、それぞれの関心に従って参加している。ほかにも適宜対面式やオンラインでの研修会に参加している。

^{xvi} 2022年度は大学、養成所等、計5校受

け入れた。教員のスキルアップとブラッシュアップの機会としている。その他、中学生の職場訪問や職場体験学習などを受け入れている。

^{xvii} 学校法人練馬みどり学園 田柄幼稚園の登録商標は、「たがらん」「トコトコたがらん（一段組・二段組）」「しるでき」「しるでき+」「キャラクター（トコトコたがらん）」の計6件。

^{xviii} 吹野安・石本道明（平成11年）『孔子全書1 論語(1)』「論語巻の一 為政第二 27」159頁